

平成27年度 道徳教育振興だより

滋賀の子どもたちにこころの元気を



教科化に向けた道徳教育の充実

中学校 H31年度
特別の教科 道徳 実施
小学校 H30年度

平成28年3月
滋賀県教育委員会

刊行に寄せて

滋賀県教育委員会事務局 学校教育課長 岩谷 斉

グローバル社会や情報化社会が急速に進展し、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しています。社会性や規範意識、善悪を判断する力、思いやりなどの豊かな心を育む道德教育の改善・充実が一層求められています。

学習指導要領が一部改正され、小学校では平成30年度、中学校では平成31年度から「特別の教科 道德」が実施されます。問題解決型の学習や体験的な学習などを通じて、自分ならどのように行動するかを考え、自分とは異なる意見と向かい合い議論する中で、道德的価値について多面的・多角的に学び、実践へと結び付けていくことは、道德の教科化の大きな目的です。

次期学習指導要領の改訂では、「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（人間性や学びに向かう力等）」という新しい時代に必要となる資質・能力の育成が求められています。

そのために課題の解決に向けて主体的に学ぶアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善の方向性が示されています。「考え、議論する」道德科への転換はこの流れに沿ったものであり、「特別の教科 道德」は、そうした趣旨を先取りしたものとと言えます。

このような中、道德教育の抜本的改善・充実に係る支援事業の推進校においては、各学校の実態に応じた取組、さらに「特別の教科 道德」の方向性を踏まえた取組をしていただきました。本冊子では、その指導事例を整理し、紹介しています。こうした事例を参考に、各学校で十分に議論していただき、実態に応じて組織的に道德教育を進めていただきたいと思います。

さらに、この冊子を、学校はもとより、家庭、地域社会における道德教育の充実に役立てていただくことにより、児童生徒が道德的価値の自覚を深め、家庭や地域社会との連携を図りながら、豊かな体験を通して子どもの内面に根ざした道德性が育成されることを期待しています。

目 次

□刊行に寄せて	学校教育課長	岩谷 斉	
□滋賀の子どもたちに心の元気を	きみは未来		1
●子どもたちの未来を拓く	滋賀県道德教育推進協議会 会長	押谷 由夫	2
●教科化に向けた道德教育の目標や改善の方向性			4
●教科化に向けた道德教育の多様な展開			5
●小中学校における道德教育の取組			
・長浜市立小谷小学校	「多様な教材を生かした指導」		6
・草津市立草津中学校	「多様な教材を生かした指導」		7
・長浜市立朝日小学校	「体験の生かし方を工夫した指導」		8
・長浜市立速水小学校	「各教科等と関連をもたせた指導」		9
・湖南市立甲西中学校	「児童生徒の内面的な自覚を促す指導方法の工夫」		10
・長浜市立湖北中学校	「児童生徒の発達や個に応じた指導の工夫」		11
・草津市立草津第二小学校	「問題解決的な学習、体験的な活動など多様な指導方法の工夫」		12
・湖南市立岩根小学校	「道德教育推進教師を中心とした指導体制の充実」		13
●高等学校における道德教育の取組(滋賀県立大津高等学校)			14
●幼稚園における道德性の芽生えを育む取組(大津市立仰木の里東幼稚園)			15
●家庭・地域社会で豊かな心を育む(道德教育推進協議会)			16
●よりよい生き方を求める『道德の時間』の創造(滋賀県小・中学校教育研究会道德部会)			17
●資料1 道德の内容項目について			18
資料2 道德教育の全体計画の別葉			19
資料3 道德の時間における指導過程(基本的な例)			20
□学習指導要領による道德教育－推進体制チェックポイント18－			21

滋賀の子どもたちに心の元気を

きみは未来

昭和女子大学 押谷 由夫

きみは、今日、どのような一日を過ごしただろうか。
朝、おきて、朝食をとり、家を出る。
学校では、みんなと一緒に、勉強し、遊ぶ。
家に帰って、遊んだり、勉強をしたり、テレビを見たり、家族と話したりする。

このような一日であったとして、きみは、どのように思うだろう。
毎日変わらないと思うだろうか。
いろんなことがあって楽しいと思うだろうか。
いやなことが多いと思うだろうか。

ときには、学校に行きたくないと思うこともあるだろう。
勉強をしたくないと思うこともあるだろう。
友だちと会いたくないと思うこともあるだろう。
家族とも話したくないと思うこともあるだろう。

そのとき、考えてほしい。
きみは今を生きている。
今までの生活を土台としながら。
そして、これから生きる。

そう、きみは未来なのだ。
未来は、今の延長にある。
今をどう生きるか。
それがきみの未来を創っていく。

どんな友達とも仲良くしているだろうか。
みんなと楽しい学校生活を送っているだろうか。
毎日コツコツと勉強をしているだろうか。
地域のひとびとともあいさつをしているだろうか。
家族と話しているだろうか。

これらはすべて、きみの未来とかかわっている。
未来を希望に満ちたものにしていくには、今を充実させる以外にない。
今をどう、充実させ、きみの未来を拓いていくか。
そして、みんなと力を合わせて、幸せな社会の未来を創っていくか。

そのことを考え、今日の自分はどうだったかを見つめる。
そこから、自分の頑張っている所を確認し、明日の課題を明確にする。
それを、明日、具体的に取り組んでいく。
そのことを繰り返し、未来を拓いていくのが、きみにとっての道徳教育なのだ。

子どもたちの未来を拓く

— 「特別の教科 道徳」を要として—

昭和女子大学 押谷 由夫

教育は、子どもたちの未来を拓いていくものです。そのリード役を果たすのが道徳教育です。いま、中央教育審議会においては、次期学習指導要領の全面改訂に向けて審議が進められ、各教科等におけるワーキンググループにおける検討へと深められています。「特別の教科 道徳」はそれらをリードするものであることを確認し、具体的な実践の充実を図る必要があります。

1 これからの教育改革に求められるもの

次期教育課程の改善に向けての中教審への諮問文や論点整理においては、特にこれからの教育改革に求められるものとして、次の点を挙げています。

(1) 新しい価値の創造

これからの未曾有の社会の変化や科学技術の進展の中で主体的に生きていくには、「伝統や文化に立脚し、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力を身に付けること」が大切だとしています。これからの社会を生き抜くためには、未来への志や夢をしっかりと持ち、既存の知識や技能、価値観を基にしながら、様々な課題に正対し、乗り越えるための知恵を導き出さねばなりません。その過程において新しい価値が創造されていくのです。

(2) 育成すべき資質・能力の3要素

そのことを踏まえて、これからの学校教育においては、特に次の3つの資質・能力を育成すべきだとしています。①「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」②「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」です。

つまり、既存の知識や技能を基に、具体的に様々な課題に対して挑んでいける力を身につける必要があるということです。そしてその力が、よりよい自己の形成やよりよい社会づくりへと向かうようにしていくことを求めています。それは、豊かな道徳性の育成が根幹となります。

(3) 社会に開かれた教育課程

そして、これからの教育課程は、子どもたちを社会や世界と結びついていくようにすることを求めています。そのためには、学校教育を学校内に閉じずに、目指すところを社会と共有・連携しながら取り組んでいくことが必要になります。そして、常に世界や社会を視野に入れながらの教育を求めています。

2 道徳教育と「特別の教科 道徳」の目標を読み解く

では、これからの道徳教育はどのようなことを目指しているのでしょうか。

(1) 道徳教育の目標—自律的に道徳的实践のできる子どもを育てる—

改正学習指導要領の総則では、道徳教育の目標を、「自己の生き方（人間としての生き方）を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする」（カッコ内は中学校）となっています。道徳教育は、まず人間としての自分らしい生き方について考えられるようになること。そして、人間としての自分らしい生き方を具体的な生活や学習活動などにおいて追究していくことを通して、社会的に自立した人間となっていくことを求めています。

(2) 「特別の教科 道徳」の目標—人生や生活に生きて働く道徳性を育てる—

道徳教育の要である「特別の教科 道徳」の目標は「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の生き方（人間としての生き方）についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」（カッコ内は中学校）となっています。

道徳教育の要としての役割をはたすために、まず、「道徳的諸価値について理解」を深めることを求めています。それは同時に、道徳的諸価値が人間の特質を表すことから人間理解を深めることとなります。次に、そのことを基にして、「自己を見つめる」ことを求めています。それは、道徳教育の目標にある「人間としての自分の生き方を考える」基本であるということとなります。

さらに、道徳的諸価値の理解を基に、「物事を（広い視野から）多面的多角的に考える」ことを求めています。それは、道徳教育の目標の「主体的に判断し行動」するための基本であると捉えられます。

このような3つのことを押さえて、人間としての自分らしい生き方についての考えを深めていく学習を行うのが「特別の教科 道徳」であるといえます。

3 道徳教育にどう取り組むのか

教師として生きるあなたにとって、このような道徳教育に夢や希望を託せるでしょうか。

では、お聞きします。あなたはどのような思いで日々子どもたちに接しておられるでしょうか。一人ひとりの子どもたちが幸せに生きていけるように、そのために少しでも役に立ちたいと思われているはずです。そのことを正面から追い求めるのが道徳教育なのです。

新しい道徳教育にどう取り組んでいけばよいのか。基本的には、先生方がこの目標を実現するための様々な方法を考え取り組んでいけばよいのです。ここでは、次の6点を提案します。

(1) 道徳的価値に照らして自分を深く見つめられるようにする

そのためには、道徳的価値についての理解を深める必要があります。様々な教材や話し合いを通して道徳的価値意識を深めていく。そこを共通理解して、自分を見つめられるようにしていくことが大切です。この押さえが十分にできていないと授業が上滑りなものになります。

(2) 事後の学習へとつなげられるようにする

道徳の授業は、授業の後にも、さらに考えてみたり、話し合ってみたり、調べてみたり、取り組んでみたりすることへの心の動きが起こることが大切です。つまり、授業を通して自己を見つめ自己課題を見出すことが求められるのです。それをどのように支援していくのが重要です。

(3) 問題解決力の育成を図るようにする

自己を磨き道徳性を高めていくには、具体的な問題や課題に主体的にかかわり克服していける力を身につけることが不可欠です。そのためには、方法に関する学びが必要になります。方法に関する学びをより深めるためには、なぜそうなったのかを中心としてその背景を探ることが重要です（人間理解、他者理解等）。そのことによってどうすればよいのかに関する議論が深まります。それらをどのように取り組んでいけばよいのか。道徳の授業が方法論の学習に力点が行くと処方箋を学ぶ授業や生活指導的な授業になっていきます。やはり原点に戻って道徳の授業と学級活動との連携を図った授業を工夫する必要があります。また、総合的な学習の時間と響かせてプロジェクト学習的に問題解決学習に取り組むことも考えられます。

(4) 総合道徳の取り組みを行う

重点目標や重点課題に関しては、「特別の教科 道徳」を要に関連する教育活動や日常生活や家庭、地域との連携等も指導計画に明確に示して、1か月くらいの時間をかけて取り組めるようにすることが大切です。その際、認知的評価、情意的評価、行動的評価も明確にし、適宜評価を行い道徳学習の充実を図ることが求められます。道徳教育はもっとダイナミックに展開する必要があります。

(5) トータルに自分を見つめ自己成長を図ることができるようにする

「特別の教科 道徳」では、トータルとしての自分を見つめ、成長を実感し、課題を見出し自ら追究できるようにしていくことが大切です。つまり、道徳の授業で自己評価、自己指導への課題の把握、授業後に課題の追求というサイクルを子ども自身が確立できるようにするのです。そのためには「道徳ノート」が重要な役割を果たします。

(6) 子どもたちの一生の宝物となる評価を行う

「特別の教科 道徳」の評価をどうするか。「特別の教科 道徳」の目標は、よりよく生きようとする心を育てることです。子どもたち一人一人がよりよく生きようとする心を育てている姿を伝え、励まし、勇気づけていけばいいのです。それは子どもたちにとって一生の宝物となります。

教科化に向けた道徳教育の目標や改善の方向性

道徳教育の目標

小学校

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

(小学校学習指導要領 第1章 総則 第1の2)

中学校

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

(中学校学習指導要領 第1章 総則 第1の2)

特別の教科 道徳の目標

小学校

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

(小学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳 第1)

中学校

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

(中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳 第1)

道徳教育の改善の方向性

学習指導要領等の一部改正のポイント

- ◆ 学校教育法施行規則において、道徳の時間を「特別の教科 道徳」として位置付け
学習指導要領において、学校教育全体としての道徳教育に関することは「第1章 総則」に、「特別の教科 道徳」に関することは「第3章 特別の教科 道徳」へと構造化
- ◆ 学校教育全体としての道徳教育の目標は、児童生徒の道徳性を養うという趣旨を明確化
道徳科の目標は、育成すべき資質・能力を明確化
- ◆ 内容について、
 - ・「自分自身」「人との関わり」「集団や社会との関わり」「生命や自然、崇高なものとの関わり」の視点により、構造化・体系化
 - ・内容項目に応じたキーワード
 - ・いじめの問題への対応を充実などの改善を行う
- ◆ 指導方法の配慮事項として、問題解決的な学習、体験的な学習などの指導方法の工夫のほか、情報モラル、環境、科学技術と生命倫理等に関する事柄を追加
- ◆ 教材については、教育基本法や学校教育法等に従い、発達の段階に即し、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないことなどの配慮事項を明記
- ◆ 評価については、児童生徒の成長の様子を把握することが基本
数値評価を行わないことは従前と同様
- ◆ 道徳の全体計画や教育活動等の公表など、家庭や地域社会との連携について記載を充実

平成27年度から、一部改正学習指導要領の趣旨を踏まえた取組が可能です。

「考え、議論する」道徳科への転換により児童生徒の道徳性を育む
小学校は平成30年度、中学校は平成31年度から、検定教科書を導入して「道徳科」を実施

教科化に向けた道徳教育の多様な展開



道徳教育の充実を図るためには、学級の実態、児童生徒の発達の段階、指導の内容や意図、教材の特質、他の教育活動との関連などに応じて柔軟な発想をもって指導計画を立て、実施することが大切です。また、学校での指導体制を充実させることも大切です。

1

多様な教材を生かした指導

道徳の時間では、道徳的な行為を題材とした教材を用いることが広く見られます。それらの教材を学習指導で効果的に生かすために、児童生徒が登場人物の立場に立って自分との関わりで道徳的価値について理解したり、そのことを基にして自己を見つめたりすることが求められます。

実践1

長浜市立小谷小学校
草津市立草津中学校
の取組を紹介します。
(詳しくは6・7ページ)

2

体験の生かし方を工夫した指導

学校の教育活動や日常生活における様々な体験の中で、児童生徒は、道徳的価値に触れ、自分との関わりで感じたり考えたりしています。道徳の時間においては、児童生徒が日常の体験やそのときの考え方や感じ方を生かして道徳的価値の理解を深めたり、自己を見つめたりする指導の工夫をすることが大切です。

実践2

長浜市立朝日小学校
の取組を紹介します。
(詳しくは8ページ)

3

各教科等と関連をもたせた指導

各教科等における学習と道徳の時間の指導のねらいが同じ方向であるときは、学習の時期を考慮したり、相互に連携を図ったりして指導を進めると指導の効果を一層高めることができます。その際、各教科等と道徳の時間それぞれの特質が生かされた関連となるように配慮することが大切です。

実践3

長浜市立速水小学校
の取組を紹介します。
(詳しくは9ページ)

4

児童生徒の内面的な自覚を促す指導方法の工夫

道徳の時間の指導の目指すものは、個々の道徳的行為や日常生活の問題処理に終わるものではなく、児童生徒自らが時と場に応じて望ましい行動がとれるような内面的資質を高めることにあります。そのため、児童生徒が道徳的価値を自覚できるよう指導方法の工夫に努めることが重要です。

実践4

湖南市立甲西中学校
の取組を紹介します。
(詳しくは10ページ)

5

児童生徒の発達や個に応じた指導の工夫

児童生徒には、年齢相応の発達の段階があるとともに、個人差も大きいことに留意し、一人ひとりの考え方や感じ方を大切に授業展開を工夫することで、児童生徒が現在の自分の在り方や今後の生き方を積極的に考えられるようにすることが求められます。

実践5

長浜市立湖北中学校
の取組を紹介します。
(詳しくは11ページ)

6

問題解決的な学習、体験的な活動など多様な指導方法の工夫

答えが一つではない問題について、児童生徒が、多面的・多角的に考察し、道徳的価値を自分との関わりで考えることができる問題解決的な学習を取り入れることが有効です。また、多様な体験活動を生かした授業を工夫し、道徳的価値のもつ意味や大切さについて深く考えられるようにすることが求められます。

実践6

草津市立草津第二小学校
の取組を紹介します。
(詳しくは12ページ)

7

道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実

道徳の時間の指導を計画的に推進し、授業を魅力的なものとして効果を上げるためには、校長の方針のもとに学校の全教師が協力しながら取組を進めていくことが大切です。道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実を図り、他の教師との協力的指導、保護者や地域の人々の参加や協力などが得られるよう工夫することが大切です。

実践7

湖南市立岩根小学校
の取組を紹介します。
(詳しくは13ページ)

小中学校における道德教育の取組

多様な教材を生かした指導

長浜市立小谷小学校 <<http://odani-es.nagahama.ed.jp>>

研究主題

人や地域とつながりながら、よりよく生きようとするたくましい湖北の子を育てる
～ふるさと学習を中心に「智 仁 勇」の心を育てる～

ふるさと学習を中心 とした体験学習

地域を生かしたふるさと学習を中心に、浅井三代の教えである

- ・智（進んで学ぶ子）
- ・仁（思いやりのある子）
- ・勇（たくましい子）

の心を育てる。



●城まつり

全校で取り組む「城まつり」では、縦割り班に分かれ小谷山山頂を目指します。当日までに様々な取組をして臨みます。

「みんなで力を合わせて頑張るぞ。」
「自分の責任はしっかり果たそう。」

価値の補充・深化・統合を 図る道德の時間

地域教材を取り入れた道德の時間を各学年で実践する。また、体験的活動での道德的価値を意識し、道德の授業を実践し、道德的実践力の育成に努める。



●道德地域教材

「地域のほこりが息づく道德」
ふるさと読本
「浅井氏三代と小谷城」

「小谷っていいところだなあ。」
「浅井三代のことをもっと勉強したいなあ。」

地域とのつながり

道德のゲストティーチャーはもちろんのこと、他の学習活動にも日常的に地域の方々の参加が多数あり、小谷の持つ底力と熱意を感じる。



●地域の方によるふるさと学習 の授業

「知らなかったことをいろいろ教えてもらったなあ。」
「小谷ってすごいんだ。」

成果と課題

○子どもたちは、「小谷が好き」と言う。地域の持つ力、地域の人とのつながりがそうさせているともいえるだろう。地域との密接なつながりであるふるさと学習を核として進めながら、道德の時間でその価値の補充、深化・統合を図っていくという試みは、子どもたちの心に響き、道德的実践力を養う素地となった。数々の体験的活動のなかに道德的価値を見出しながら実践力を育てることができた。

●道德の時間の学習が子どもたちの心に響くために、今ある地域教材を見直していくことも必要である。また、真の道德的実践力を養うために、いかに自分の心に返せるか、そのために、授業の展開後段部分を大切にしたり、道德学習を振り返るための掲示等を工夫したりするなど、まだまだ改善点は多い。

小中学校における道徳教育の取組

多様な教材を生かした指導

草津市立草津中学校 <<http://www.kusatsu-j.skc.ed.jp>>

研究主題

いのちがやき、心豊かな生徒の育成

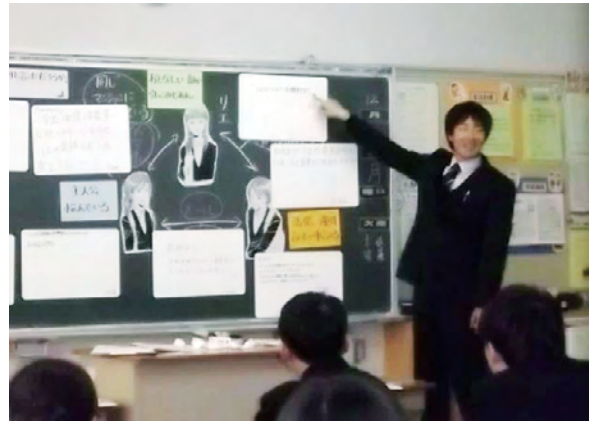
～情報社会における正しい判断力や望ましい態度を育てるために～

情報社会への参画において、責任ある態度で臨み、義務を果たせる生徒の育成を目指す。発信された情報の影響を考え、責任をもってコミュニケーションツールを活用する力と、マナーやルールを理解したうえで人権やプライバシーを尊重して情報発信する力を育成する。

取組 1 情報モラルにかかわる道徳教育の教材開発

本校の実態を踏まえながら、進歩する情報社会において正しい判断力や行動力を育成することを目的とした教材を開発した。

- ・ 1年生道徳資料『本当の心』
(友だちとの携帯電話でのやりとりについて)
- ・ 1年生道徳資料『ハローCQ』
(見知らぬ人とのコミュニケーションについて)
- ・ 2年生道徳資料『まわしていいの？チェーンメール』
(「迷惑メール」や「チェーンメール」について)
- ・ 3年生道徳資料『ありがとうの手紙』
(感謝の気持ちの伝え方について)



↑ 開発した教材を用いた授業

取組 2 開発した教材を用いた授業実践

1年生の授業では、資料『本当の心』を読み、無料通話アプリや電子メールは便利である一方、実際の会話とは異なり感情や考え方の行き違いが生じやすいということに気づき、友情について考えを深め合った。本校の生徒にとって身近な話題をもとにした資料を用いたため、グループ活動では、生徒一人ひとりの思いを活発に交流することができた。無料通話アプリや電子メールに頼ることなく、話合いを通して友だちとの信頼関係を築いていこうとする心情を養う授業となった。

おはよう！昨日のことだけど、リエとトモヨの本当の気持ちをここで言っよ。

リエはちゃんと自分の気持ちを言いや！
トモヨは、リエに意見を押しつけすぎやで！

リエは本当はどっちの委員会に入ろうと思っているの？私は、リエがやりたい方の委員会をやつらいいと思う。

昨日はメールでよくわからなくて、怒ってしまってゴメン。でも、リエの好きなようにさせてあげたら。

やっぱみんなのやりたいものにしようや。私だってリエだって、トモヨだって、それぞれの気持ちがあるやん。それに委員会が別でも仲良しなことに変わりはないんやから！

委員会のこと、どうなった？リエもトモヨのこと思っているからまず、意見を出そうよ。どの委員会の仕事をやりたいか、みんなで言い合おう！

あなたがユミなら、翌朝二人にどう声かけをするか？

↑ 資料『本当の心』をもとにしたグループ活動の様子

成果と課題

開発した教材を用いた道徳の授業における「生徒の振り返り」より

(「4：そう思う、3：まあそう思う、2：あまりそう思わない、1：そう思わない」による回答の平均ポイント)

- ①資料・物語はよかったか？(心に響いたか) …………… 3.5 P
- ②今までの自分を振り返ることができたか？…………… 3.3 P
- ③新たな気づきや友だちの意見に共感することができたか？…………… 3.4 P

○開発した教材により生徒の興味や関心を高め、道徳の時間に積極的に参加する生徒を増やすことができた。また、話合い活動が活発になり、友だちの意見に学び合う姿が見られるようになった。

●情報モラルにかかわる道徳教育の教材をさらに開発するとともに、授業研究、事後分析に取り組む必要がある。

小中学校における道徳教育の取組

体験の生かし方を工夫した指導

長浜市立朝日小学校 <<http://asahi-es.nagahama.ed.jp>>

研究主題

人や地域とつながりながら、よりよく生きようとするたくましい子どもを育てる
～道徳の時間における授業改善と日常の取組を通して～

取組 1 「ふるさとの山を歩こう活動」で家庭・地域と連携 内容項目：3-(6)郷土愛

家庭、地域、ボランティアの方々と連携し、郷土を愛する態度の育成および集団や社会と積極的に関わる児童の育成を目指す。



【全校：地域の方に自然や歴史の話聞く】

歩いている途中、地域の方が声をかけてくれてうれしかった。

山の恵みのありがたさを学んだ。歩くのは大変だったけど、みんなと声をかけ合い、すごく頑張った。

多くの方々のお陰で楽しく助けて登れた。温もりいっぱい地域で幸せだ。

取組 2 「愛鳥学習」を各教科・特別活動・日常生活に活かす取組 内容項目：4-(1)生命の尊さ

生活科や総合的な学習の時間に「野鳥センター」を活用し、自然愛護や生命の尊さ等を学ぶ児童の育成を目指す。



【5年：野鳥センターでの愛鳥学習】



【愛鳥委員会の取組】

全校児童の80%が参加

取組 3 相手を尊重し気持ちに寄り添う交流の場の設定 内容項目：2-(1)親切・思いやり

自然体験・福祉体験・地域の人々との交流を効果的に行い、人権尊重・生命への畏敬の念・生きる喜びをもつ児童の育成を目指す。



【2年：畑の先生による学習】



【6年：福祉施設訪問】

成果と課題

- 相手意識を持ち自信をもって話せる児童が増えてきた。
- 人や自然に対して感謝する言葉を口にしたり、地域の人を学習に招待したりして、積極的に関わろうとする児童の姿が増えてきた。
- 自信をもって授業ができるようになった教師が、50%から67%へ向上した。
- 児童が自分を振り返る場面を設定し、他者とのより良い関係の構築を目指す実践を積み上げる。
- 体験活動とのつながりを持たせた授業展開で、学校・家庭・地域が一体となった研究を進める。

小中学校における道徳教育の取組

各教科等と関連をもたせた指導

長浜市立速水小学校 <http://hayami-es.nagahama.ed.jp>

研究主題

人や地域とつながりながら、よりよく生きようとするたくましい湖北の子を育てる
 ～情報社会における正しい判断力や望ましい態度を育てるために～

子どもが道徳性をはぐくむ場を総合的にとらえ、各教科や特別活動、総合的な学習の時間等の特質を生かして行われる体験的な活動を、「道徳の時間」を中心に有機的に関連づけ、価値の補充・深化・統合ができるよう取り組む。

取組 1



〈道徳の授業〉
4-(2) 勤労・社会奉仕

対話を大切にした授業
子どもたちがペアになって、お互いの思いを交流し、価値に迫る。

取組 3

働く場を広げる
地域をきれいにする活動の意味を知り、働くことよさを体感する。



〈通学路の清掃活動〉

総合単元的な道徳学習構想図
3年 2学期 <みんなのために>

	体験活動・学校行事等	道徳の時間	教科等
9月	2学期の係活動 自分の仕事を最後まで一生懸命に取り組む。 日常の清掃活動 分担場所の掃除をする。	主題 感謝の気持ち 資料名 おばあさんときれいな歩道 価値 2-(4) 尊敬・感謝 日ごろお世話になっている人々に、尊敬と感謝の気持ちを持って接しようとする心情を育てる。	
10月	外掃除 学級毎に分担場所の草むしりをする。		社会 「店で働く人々」 店で働く人々の様子を見学したりインタビューしたりして、働く人々の工夫や努力を知る。
11月	クリーン作戦 「ごみゼロの日」に関連して、校外と学校周辺の清掃活動をする。	主題 自ら進んで働くことの大切さ 資料名 ごみステーション 価値 4-(2) 勤労・社会への奉仕 自ら進んで働くことの大切さを知り、力を合わせ、みんなのために主体的に働く態度を養う。	社会 「畑で働く人々」 畑で働く人々の様子を見学したりインタビューしたりして、働く人々の工夫や努力を知る。
12月	大掃除 2学期に使ってきた教室や廊下、特別教室をきれいに掃除をする。	主題 母の愛 資料名 ブラッドレーのせいきゅう書 価値 4-(3) 家族愛 父母を敬い、家族と力を合わせて、楽しい家庭を築こうとする心情を育てる。	総合 大豆を収穫しよう みんなで協力して、6月に種をまいた大豆の収穫をする。

取組 2

働くことの喜びに気づく
働く人の話を聞くことを通して、仕事に対する思いを知り、自分に返す。



〈お店の見学〉

子どもの変容

- ・学習を通して、子どもの働くことへの意識が高まった。
- ・学校生活だけでなく、年末の大掃除など家庭生活でも働くことに積極的に関わる子どもが増えた。

成果と課題

- 「道徳の時間」に学んだことを生活の場で意識できる子どもが増えた。
- 「道徳の時間」に対話を取り入れたり、各教科や特別活動、総合的な学習の時間等の特性を生かして行われる体験的な活動を、「道徳の時間」を中心に有機的に関連付けたりすることにより、一層の価値の充実・深化・統合ができるよう取り組む。

意識調査 (授業で思いを話している)

	6月	1月
そう思う	28%	55%
どちらかと言えば そう思う	62%	41%
どちらかと言えば そう思わない	10%	4%

小中学校における道德教育の取組

児童生徒の内面的な自覚を促す指導方法の工夫

湖南省立甲西中学校 <<http://www.edu-konan.jp/kosei-jh>>

研究主題

豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成
～道德の時間を通して、価値の自覚および、自己の生き方について
考えを深めるとともに道德的実践力を育成する～

本校では、豊かな心を持ちたくましく生きる生徒の育成を目指し、道德の時間を要として、あらゆる教育活動で体験活動の機会を設けた。道德の授業では、書く活動を通して自分の思いをしっかりと持ち、グループ活動による話し合いを通し、思いを伝え合うことで道德的価値について多面的・多角的に学ぶことを大切にしてきた。また、道德教育とその他の教育活動との連携をとり、道德的実践力と道德性の向上を図る研究を推進した。

授業を充実させるために

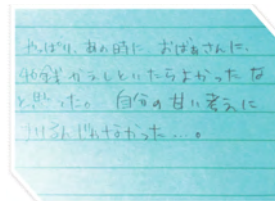
誰もが安心して授業が行えるために「湖南省スタイル」および滋賀県道德部会提案の基本型により、同じスタイルで授業実践

生徒の自覚を促す授業実現のために

①めあてを自覚する



②自分の考えを書く



自分の思いを書いた付箋

③自分の考えを交流する



付箋を使ったグループでの話し合い活動



発表用ボードにまとめ、全体交流

④まとめ

⑤ふりかえり

道德的実践力を培うために

体験活動の充実



体育祭のソーラン練習では、上級生が下級生へ指導

地域との連携



お客さんではなく、生徒が主体となる活動の場を地域と連携しながら保障

成果および課題

【成果その1】

授業スタイルを統一することで、どの先生も安心して授業に臨む姿が見られた。

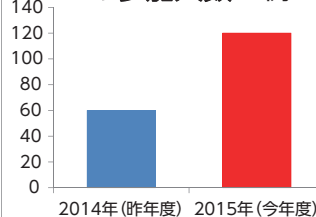
【成果その2】

道德的諸価値についての理解を基に自己を見つめ、グループの中で自分の思いを伝えられる生徒が増えた。このことにより、他教科でも話し合い活動を生かすことができるようになりつつある。

【成果その3】

道德の時間と体験活動を有機的に結びつけることにより、主体的に地域への行事や清掃活動に参加するようになった。後輩を思いやる言動が増えたり、また、行事をやりきろうとしたりする姿が見られるようになってきた。

みちくさコンパスへの参加人数一例



今年度の地域行事の参加率は、昨年度と比較し、約2倍増加

【課題】

道德の授業改善で得られた成果をさらに他教科へ生かしていくことで、生徒が主体となる学習の充実を目指していきたい。

小中学校における道德教育の取組

児童生徒の発達や個に応じた指導の工夫

長浜市立湖北中学校 <<http://kohoku-ms.nagahama.ed.jp>>

研究主題

人や地域とつながり、よりよく生きようとするたくましい湖北の子どもを育てる ～ 学力・特別支援・ふるさと学習から ～

本校区は、伝統的な行事や文化遺産、豊かな自然環境に恵まれている。生徒は純朴で、奉仕的な活動にも真面目に取り組める。反面、自己表現力に乏しく、時には心ない言動もみられるなど課題もある。

このような実態を踏まえ、「学力・特別支援・ふるさと学習」の3つの視点から人や地域とつながる授業や取組を展開し、個々の生徒の意識の向上や自尊感情の高まりをめざし、研究と実践に取り組んだ。

研究組織

- ◇特別支援教育の視点からの授業改善部会 … 発達年齢の特徴とともに、個人差や学級それぞれの特徴にも着目し、個々の生徒への関わりを大切にしたい取組を研究する。
 - ◇学力向上に向けての授業改善部会 … 学力向上に結びつく「意欲」や「やる気」を高めるための取組を研究する。
 - ◇ふるさと・環境学習の推進部会 … 地域のかげがえのない自然や環境、伝統文化を生かした取組と道德の授業との関連を研究する。
- ※各学年所属が、それぞれの部会に所属して、学年間で協力して実践を進める。
※生徒会やPTA、学校運営協議会、各種地域団体とも連携して活動を展開する。
※各部会が連携した取組を進める。

子どもの変容



(ようこそ先輩『人生を切り開く』)

話を聞いて、そして、道德の授業で真剣に考え、どんなに苦しいことがあっても「夢」をあきらめてはいけないんだなと思いました。私も自分の「夢」を実現するためにがんばりたいです。

マラソン大会のボランティアは初めてでしたが、とても楽しかったです。多くの方が長浜を訪れてくださるので、ぜひ、来年も参加して協力したいです。

主な取組

- ◎ 道德と他教科・諸活動との連携と教材化
 - 本校を卒業された先輩を招いての講演会とそれを題材にした自作教材による道德の授業実践（学力部会・特別支援教育部会）
 - 地域で農業や環境保全活動に活躍されている方を取材し、これを題材にした自作教材による道德の授業の実践（ふるさと・環境部会）
 - トイレ掃除に学ぶ会と連携した学校清掃活動
 - 学区内各施設に出かけての地域貢献活動と授業（特別支援部会）
 - 地域行事（イルミネーション製作・マラソン大会補助・社会を明るくする運動での挨拶活動など）でのボランティア活動による体験的な学び

成果と課題



(お市マラソン ボランティア)

- 卒業生の講演や地域での身近な取組を道德の題材にしたことで、印象深い授業となり、生徒の意欲・関心を高めることができた。
- 地域へのボランティア活動が広報誌にも紹介された。個々の生徒の興味・関心を大切にしながらかけたことにより、一人ひとりの自己有用感や自尊感情を高めることにつながった。
- 地域の取組を継続して題材化する難しさを感じた。
- ボランティア活動の意義や関心を多くの生徒に一層広げる。
- 本校の特徴を生かした道德の体系的な年間計画を作成する。

小中学校における道徳教育の取組

問題解決的な学習、体験的な活動など多様な指導方法の工夫

草津市立草津第二小学校 <<http://www.kusatsu2-p.skc.ed.jp>>

研究主題

豊かな心と確かな学力を育む道徳教育

～人とのかかわりを通して、

道徳的価値の自覚や自己の生き方についての考えを深めていく教育の創造～

本校では、進んで人とかかわり合い高め合う中で、多面的・多角的な考えにふれながら、主体的に学ぶ姿を追究してきた。授業においては、全校でできる共通の学習過程・学習活動（草二小スタイル）の実践や情報モラルにかかわる道徳の時間の取組を進めてきた。また、実践活動や体験活動の充実のための特別活動等の工夫改善や、指導体制の充実、地域との連携に努めている。

取組 1 子どもの感想や気づきからの学習課題設定

資料との「出会い」を大切に、そこで感じたことや疑問に思ったことから学習課題を設定して学習を進めてきた。学習の主体者である子どもの思いを大切にすることで、より主体的に学習が進められると考えた。また、この学びが生活場面において道徳的価値に「気づき」「判断する」「実践する」力を育むことにつながると考える。

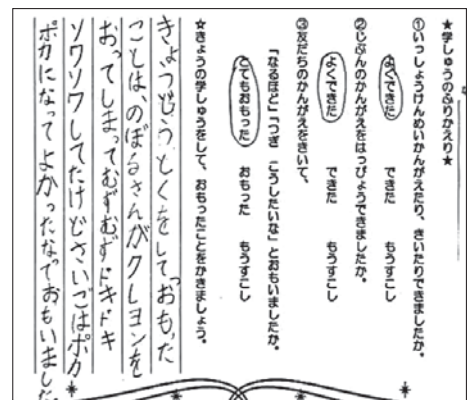
学習課題に迫る中心発問では、子ども一人ひとりが自分の考えを持ち、意見を進んで発表する姿が見られた。アンケートでは「自分の気持ちを話したり、書いたりしている」と答えた子どもが増えてきた。



↑子どもの思いを大切に学習課題を設定した授業の板書

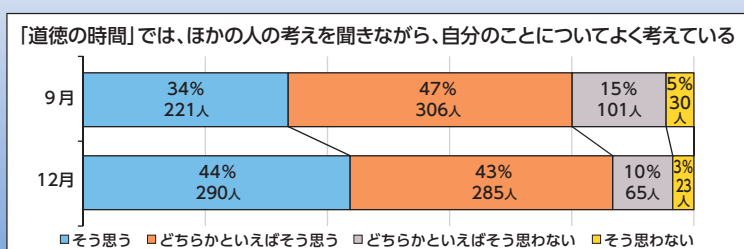
取組 2 自分の学びを確かなものにする振り返りの時間の設定

学んだ価値について自分の生活に照らし、考えたこと、新たに発見したことなどを振り返りの時間に書くことにより、1時間の学びが確かな力となる。取組を続けた結果、アンケートでは「道徳の時間がためになる」と感じている子どもが増えた。



「学習のふりかえり」記述例→

成果と課題（アンケート結果より）



○人とのかかわり合いの中で自分を振り返り、考えを深める子どもが増えた。

●設定した学習課題をもとに、道徳的価値に迫る話合いの充実を図っていけるように、今後の研究を進めたい。

道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実

湖南省立岩根小学校 <<http://www.edu-konan.jp/iwane-el>>

研究主題

心豊かで キラリかがやく子の育成

～よりよい生き方を求めて、考えや思いを受け止め、伝え合う学びの場づくりを通して～

いわゆる「基本型」がよいとされてきた道徳の授業。子どもの心を解き放ち、子ども自身が道徳的価値を感じて自分自身の道徳的実践を高めていこうとする時、その方法は本当に有効なのか。その疑問を呈することからスタートした研究をリードしたのは、道徳教育推進教師の存在であった。

取組 1

「読み物の登場人物の心情理解に偏った授業」から
「自分とのかかわりで道徳的価値を捉える授業」へ

- 【1】 予習で前もって教材を読むことであらず確認の時間を短縮
- 【2】 教材への発問を精選することで自己を振り返る時間を確保
- 【3】 1教材を2時間扱いにすることで、子どもが考える時間を確保

取組 2

「教師と子どもとの1対1のやりとりで進む授業」
から「子どもたちが主体的に学ぶ授業」へ

- 【1】 ペアやグループで
- 【2】 児童が司会をして



話し合い
が活発になり、
友だちの
意見や考
えがよくわ
かったよ。



- 【3】 中学校区共通のハンドサインで

自分の考
えたことや
気持ちがあ
らゆるよう
に表現しやす
くなったね。



友だちの考
えや思いを自
分の考えと開
連づけること
ができたね。

道徳教育推進教師からのアクション

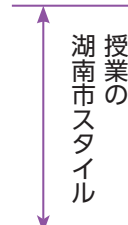
1 研究の方向を示す

そのために自分がまず先進的な考え方を知り、本校の現状を踏まえながら具体的な方針を立案した。

2 授業の流れを示す

「授業の湖南省スタイル」に則って道徳の授業を行い、児童が主体的に学習を進めることを提唱。そのうえで、道徳的実践の場が確保されるよう⑥の段階を設けた。

- ①めあてを自覚する
- ②自分の考えを書く
- ③考えを交流する
- ④先生がまとめる
- ⑤学習をふりかえる
(学びの自覚)



- ↓
- ⑥事後につなぐ (学びを深める)

取組 3

「一人ひとりの道徳的価値意識の高まりの評価」を捉えやすく

- 【1】 導入と終末で同じ問いかけをし、その違いを比較する
- 【2】 ふり返りのワークシートで、今までの自分とこれからの自分について書く (気づく)

取組 4

「家庭や地域と連携することで、さらに子どもの道徳心を育む」ように

- 【1】 家庭で「わたしたちの道徳」を読み語らう
- 【2】 家で復習する・予習する
- 【3】 地域ボランティアの方から学ぶ
- 【4】 保護者・地域の方と共に考え、活動する

成果と課題

- 道徳の授業をきっかけとして様々な教科等で子ども主体の授業が工夫されるようになり、学習に前向きに取り組む児童が増えてきた。また、教員自身が切磋琢磨するようになった。
- 発表の場面では発言者の言うことを聞き逃すまいとする態度が、生活場面においては困っている人の求めにすばやく気づき、行動できる態度が、それぞれ身についてきた。
- 自分の考えを大きな声で発表できない子、書き表せない子どもに「それでいいんだよ」「自信を持って発表してみようよ」などと励ましなが、さらに自尊感情を高めていきたい。

高等学校における道德教育の取組

滋賀県立大津高等学校 <http://www.ohtsu-h.shiga-ec.ed.jp>

研究主題

人間としての在り方生き方を育む教育の深化をめざして

- **これまでの経過** 平成23～25年度道德教育総合支援事業・平成26年度道德の抜本的改善・充実に係る事業推進校
学校行事を通じた仲間づくりや、人権学習、総合的な学習の時間等での体験的な学習を通して、人としての在り方生き方を考えさせる取組に力を入れ、生徒の道德的実践力や道德性の育成を図った。
- **今年度について**
取組の深化を目指す。個々の取組を発展させるとともに、教科活動の中に道德の視点から位置付けた指導事項を盛り込み、授業を実践することについて取り組んだ。

1 はじめに

本校は「～SMILEで輝く、未来へのまなざし～」をキャッチフレーズに「知性・教養・良識に溢れ、自己を大切にするとともに、他者の人権を尊重できる生徒」を育み、より高い目標を目指して学習（S）・学級活動や部活動（E）で切磋琢磨し、礼儀作法（M）・知性（I）・人を思う心（L）のバランス感覚に優れた人間を育成することを目指して教育活動に取り組んでいる。平成23年から、道德教育を多面的に位置付け、道德的な視点から全教育活動を見つめ直し、以下の実践をした。

2 取組の概要

(1) 高等学校教育での道德教育の位置付け

○シラバスの再構築
教育課程内で道德教育の展開を具体化するために、全教科のシラバスの中から道德的なキーワードを抜き出し、これに基づき各教科で道德的内容を扱う単元を再度整理した。全体計画の別案を見直し、授業における道德的観点を再確認し、道德教育の位置付けを明確にした。

①全体計画 別表(国語)		項目	
物事とより良い関係を構築して 人としての在り方		社会の一員としての自覚を持つ取組	自己実現を目指す取組
中学校の道徳における 24の徳	「物事とより良い関係を構築して人としての在り方」を学ぶことにより、社会の一員としての自覚を持ち、自己実現を目指す取組	「物事とより良い関係を構築して人としての在り方」を学ぶことにより、社会の一員としての自覚を持ち、自己実現を目指す取組	「物事とより良い関係を構築して人としての在り方」を学ぶことにより、社会の一員としての自覚を持ち、自己実現を目指す取組
キーワード	「物事とより良い関係を構築して人としての在り方」を学ぶことにより、社会の一員としての自覚を持ち、自己実現を目指す取組	「物事とより良い関係を構築して人としての在り方」を学ぶことにより、社会の一員としての自覚を持ち、自己実現を目指す取組	「物事とより良い関係を構築して人としての在り方」を学ぶことにより、社会の一員としての自覚を持ち、自己実現を目指す取組
進取の心	○	○	○
学級の心	○	○	○
学校の心	○	○	○
社会の心	○	○	○
国語科	「物事とより良い関係を構築して人としての在り方」を学ぶことにより、社会の一員としての自覚を持ち、自己実現を目指す取組	「物事とより良い関係を構築して人としての在り方」を学ぶことにより、社会の一員としての自覚を持ち、自己実現を目指す取組	「物事とより良い関係を構築して人としての在り方」を学ぶことにより、社会の一員としての自覚を持ち、自己実現を目指す取組

【全体計画 別表 国語の例】

(2) 他者とより良い関係の構築を目指す取組

- ① 1分間スピーチ
相手の思いを汲み取り、自分の考えを的確に伝える難しさに気付かせた。
- ② コミュニケーションスキルアップ講座
他人の思いを汲み取り、自己の考えを的確に伝えるスキルを学んだ。

③人権学習

- 3年：部落差別問題
- 2年：在日コリアン問題
- 1年：障害者問題に関するフィールドワーク
異なる価値観があることを知り、自分とは違う考え方も尊重し、自己の考えを深めていく生徒の育成を目指した。



<1年車椅子体験学習>

(3) 社会の一員としての自覚をもち、自己実現を目指す取組

- 主権者教育
2年生全員を対象として「私たちが拓く日本の未来」をもとに特別講座を開催。18歳以上に選挙権が引き下げられることを視野に入れて実施した。
- 進路学習
・自己理解レポートの作成
・上級学校への校外学習
自分の適性を知り、社会の仕組みを理解し、自分の力を発揮できる場を見付ける取組をした。

(4) 誰もが輝ける場所のある集団づくり

- 学校行事
・学園祭におけるCIA
Class Image
Attraction:
(マスゲーム)の取組



<CIAの一場面>

- ・CIAの取組では、全員で一つの表現を作り上げる喜びを体験できた。修学旅行でも学年イベントを開催する等、行事を通じ、クラスづくりに取り組んだ。

3 まとめ

- 様々な教育活動を道德教育の視点で整理し、教育活動全体の中に位置付けた。道德教育が着実に定着している。
- 授業者が道德を意識した授業づくりを常に心がけることができるよう、校内での研究授業や教員研修を活発にし、校内組織を再構築し、道德を意識した学校づくりを進めたい。

幼稚園における道徳性の芽生えを育む取組

大津市立仰木の里東幼稚園 〈<http://www.city.otsu.lg.jp/soshiki/070/yochien/2733>〉

初めての社会生活の場である幼稚園で、幼児は様々な事象に出会い、自分で考え自分で行動する体験を重ねながら自立に向かっていく。また、友達や先生、様々な人とのかかわりの中で心情体験を深め、人とともに生活することの楽しさや喜びを味わえるようになる。

本園では、幼児が自ら心を動かして取り組むための魅力的な環境づくりと幼児の心の揺れを見守り必要なときに支える援助、様々な人とかかわる体験から、幼児の豊かな心を育てる保育に取り組んでいる。

自分でできた！

入園から一ヶ月。一人で着替えることが難しいAくんですが、なかなか手伝わせてくれません。ある日のこと、Aくんが制服のボタンを留める様子を見せてくれました。「すごい！できたね」の声に「自分でできた！」と、うれしそうです。クラスの友達の姿がAくんの心を動かし「やってみよう」と思う気持ちにさせたようです。そして、Aくんの心の揺れを見守り、必要なときに手助けをする先生の温かいかわりが、「自分でできた！」につながりました。

様々な人との交流



5年生との交流

5-5交流（幼稚園の5歳児と小学5年生の交流）をはじめとする小学生との交流、老人クラブとの世代間交流や特別養護老人ホームへの訪問、敬老の日に祖父母の皆様に手紙を送るなど、様々な人との交流を実施しています。

相手を思う経験を重ねることを大切にして取り組んでいます。

仲間とともに

運動会で「跳び箱を見てもらう！」と決めたBくんですが、なかなか跳び越せるようになりません。つまらなくなったBくんは遊びを転々としていました。



持っていてあげるよ！

ところがある日、何度も何度も繰り返し

挑戦しているBくんの姿がありました。そばに行ってみると、Cくんが「頑張れ！」「手をここにつくねん」「この辺を見て走るといいで！」「さっきより上手になってる！」と、Bくに跳び方をアドバイスしていました。

Bくんは友達の応援をうけて、「やるぞ！」「もう一回！」という強い気持ちをもったようです。そして、Cくんの「あと5回（運動会までの日数）やったら、Bくんもできると思うで。だって僕も何回もしたらできたもん。」と話す様子に、自分と向き合いながら取り組んでいたこと、そして、繰り返すことのできるようになった自信と自分の成長を実感し、そのことを友達にも重ね合わせて応援していたことを感じました。

今後も、毎日の遊びや生活の中での幼児の心の揺れを大切に捉え、一つ一つの体験から豊かな心が育つように実践を重ねることで、道徳性の芽生えを培っていきたい。

成果と課題

- 自分でやろうとする気持ちや目標に向かって、繰り返し取り組む態度が育った。
- 相手の思いや状況に気づいたり思いを寄せたりする心や気持ち、力を合わせようとする態度の育ちが見られた。
- より主体的に考え、行動できる力を育成するための協同的な遊びをさらに充実させたい。
- 発達の時期に応じた基本的な生活習慣の形成や言葉の育ちに向けて、家庭と連携した取組を一層進めたい。

家庭・地域社会で豊かな心を育む (道徳教育推進協議会)

息子が、海外の研修に行った時、価値観の違いに出会い、驚いたと言っていました。国際化に対応する子どもを育てていくことが大切です。外国の人との関わりの中で、自他によさに気付くことができ、郷土愛も育まれます。

母親から離れ、初めて社会に出て、人・もの・ことに出会うのが就学前教育の場であり、ここで新たな自分を創っていくことになります。価値の違いものとの出会いは、これから生きていく上で基礎になります。遊びや生活の中で育まれる道徳性の芽生えを大切にしていきたいです。子どもにとって身近な人と豊かに関わらせたいです。

高校生対象の企業研修での税の学習では、税金を払う意義について学んだ後、税金を払っていかうという実践意欲が高まっていました。主権者教育も同じで、意義を理解し、自分のこととして考えさせ、社会で自立していけるように学んでほしいです。

各推進地域では、特色ある取組をされています。郷土資料を作っている学校や地域もありますね。それらを活用して、郷土のすばらしさに気付き、郷土の発展に努めようとする意欲につながり取組ができるとよいですね。



滋賀には素晴らしい先人がたくさんおられます。損得を考えずに、地域の貢献を第一に考えていた「三方よし」の近江商人の生き方や中江藤樹先生の教えなど、近江の心を学ばせたいです。

高等学校の教育課程の中で、道徳教育を位置付け、全体計画の別業を整理しました。道徳教育に対する教師の意識が高まってきています。

卒業した中学生が小学生と一緒に学んだり、お年寄りと活動したりしている地域もあるのですね。地域の人と交流することが楽しいと感じ、ボランティア活動に参加する子どもが増えた地域もあります。道徳教育の充実には、家庭や地域社会と学校の連携・協力が大切ですね。

タブレットやスマートフォンを持っている子が増えています。情報モラルに関する指導を充実させることも大切ですね。保護者や地域の人を巻き込んだ取組ができるとよいですね。

平成27年度 滋賀県道徳教育推進協議会委員一覧 (敬称略)

	氏名	所属等
会長	押谷 由夫	昭和女子大学大学院教授
副会長	古我 幸二	滋賀県立大津高等学校校長
委員	大塚 良彦	大塚産業クリエイティブ株式会社代表取締役社長
委員	他谷 恵津子	NPO法人子育てネットワーク志賀うりぼう理事長
委員	大辻 典子	滋賀県PTA連絡協議会副会長
委員	伊香 由美子	大津市立仰木の里東幼稚園園長 滋賀県国公立幼稚園・こども園長会副会長
委員	西村 万里子	長浜市教育委員会事務局教育指導課副参事
委員	楠見 丹生子	草津市教育委員会事務局学校教育課専門員
委員	吉村 里佳	湖南市教育委員会事務局学校教育課指導主事
委員	野村 幸弘	長浜市立湖北中学校校長
委員	園田 和美	守山市立物部小学校校長 滋賀県小学校教育研究会道徳部会長

よりよい生き方を求める『道徳の時間』の創造

滋賀県小・中学校教育研究会道徳部会

だれもが
取り組める
道徳の授業
を目指して

道徳部会では誰でも取り組める道徳の授業の指導過程をどう構築していくかについて研究を続けています。私たちがお勧めする指導過程は以下のようなもので、「基本型」といわれています。「基本型」については、滋賀県教育委員会が出された資料3（本誌20頁）に詳しく解説がしてあります。また、三年を一区切りとして研究主題を設定し、毎年夏季研修会、各ブロックの授業研究会で研究を深めながら、原則として、最終年度に県大会を開催して、「基本型」に基づいた効果的な授業の啓発と研究に取り組んでいます。

平成26年度～平成28年度研究主題

『よりよい生き方を求める『道徳の時間の創造』』

～ねらいに迫る「道徳の時間」の在り方～

具体的な取組

(1) 夏季研修会での実践交流と研修から

- 平成27年7月31日（金）
蒲生コミュニティセンター
模擬授業 「知らない間の出来事」
（出典：文部科学省「私たちの道徳」小学校5・6年）
- ねらい：互いに信頼し合い、友情を深めていこうとする態度を育てる

《主な発問》

導入 友だちについて考える。

「みんなにとって、友だちってどんな存在ですか。」

（黒板に「友だち」と板書し、価値についての意識付けをする。）

展開前段 資料を用い価値の追求把握をする。

（みかの気持ちを中心に追う）

- 「あゆみの自己紹介を聞いたみかは、どんな思いでいるでしょう。」



（教師があゆみになりきり自己紹介をする。場面絵を提示する。）

- 「あゆみから電話番号を書かれた紙をもらった時、みかはどんな思い

でいるでしょう。」

（みかと仲良くなりたと思うあゆみの気持ちに十分共感できるように切り返し発問をする。）

- ◎「あゆみのことで頭がいっぱいになっている時、みかはどんなことを考えているでしょう。」

（子どもたちの意見を整理するために十分に意見を聞いてから類型化を行う。場面絵を提示する。）

展開後段 高まった価値に照らし合わせ自己を振り返る。

- 「友だちのよさを感じたり、仲が深まったりしたことを振り返りましょう。」

（より深く自分を振り返ることができるようにワークシートに書く活動を取り入れる。）

終末 教師の話聞く。

（価値についての余韻を残して終わる。）

ここでは、基本型に忠実な指導過程に基づいた授業をどのように進めるかを実際に見ることで、道徳の時間のイメージ化を図りました。

(2) 近畿道徳教育研究大会滋賀県大会より

平成27年11月20日（金）湖南市立石部中学校

平成27年11月27日（金）彦根市立城東小学校

両校の授業公開、分科会（近畿各府県、市（京都・大阪）からの実践発表）、赤堀博行文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官から「今、求められる道徳教育の充実～道徳の「特別の教科化」に対応するために～」と題して講演をいただきました。

教科化にいたる背景、教育活動全体を通じて行う道徳教育の進め方（各校の道徳教育の重点目標、重点内容項目の明確化、具体的な指導の機会、時期の明確化、全体計画別葉の作成）、道徳の授業の基本的な考え方について、具体例を用い指導を受けました。

今後、「自分との関わりで道徳的な価値を考える道徳」が望まれますが、本部会では「価値を深めるための発問の工夫」と、「深められた価値に基づいて自己をより深く振り返るための工夫」に引き続き力を入れつつ、思考を深める手立てを研究していきたいと考えています。

新学習指導要領の内容項目にあることを示しています。

小学校1・2年(19項目)		小学校3・4年(20項目)		小学校5・6年(22項目)		中学校(22項目)	
A 主として自分自身に関すること							
(1)	善悪の判断、 自律、自由と責任	(1)	善悪の判断、 自律、自由と責任	(1)	善悪の判断、 自律、自由と責任	(1)	自主、自律 自由と責任
(2)	正直、誠実	(2)	正直、誠実	(2)	正直、誠実		
(3)	節度、節制	(3)	節度、節制	(3)	節度、節制	(2)	節度、節制
(4)	個性の伸長	(4)	個性の伸長	(4)	個性の伸長	(3)	向上心、個性の伸長
(5)	希望と勇気、 努力と強い意志	(5)	希望と勇気、 努力と強い意志	(5)	希望と勇気、 努力と強い意志	(4)	希望と勇気、 克己と強い意志
				(6)	真理の探究	(5)	真理の探究、創造
B 主として人との関わりに関すること							
(6)	親切、思いやり	(6)	親切、思いやり	(7)	親切、思いやり	(6)	思いやり、感謝
(7)	感謝	(7)	感謝	(8)	感謝		
(8)	礼儀	(8)	礼儀	(9)	礼儀	(7)	礼儀
(9)	友情、信頼	(9)	友情、信頼	(10)	友情、信頼	(8)	友情、信頼
		(10)	相互理解、寛容	(11)	相互理解、寛容	(9)	相互理解、寛容
C 主として集団や社会との関わりに関すること							
(10)	規則の尊重	(11)	規則の尊重	(12)	規則の尊重	(10)	遵法精神、公德心
(11)	公正、公平、社会正義	(12)	公正、公平、社会正義	(13)	公正、公平、社会正義	(11)	公正、公平、社会正義
(12)	勤労、公共の精神	(13)	勤労、公共の精神	(14)	勤労、公共の精神	(12)	社会参画、公共の精神
						(13)	勤労
(13)	家族愛、 家庭生活の充実	(14)	家族愛、 家庭生活の充実	(15)	家族愛、 家庭生活の充実	(14)	家族愛、 家庭生活の充実
(14)	よりよい学校生活、 集団生活の充実	(15)	よりよい学校生活、 集団生活の充実	(16)	よりよい学校生活、 集団生活の充実	(15)	よりよい学校生活、 集団生活の充実
(15)	伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度	(16)	伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度	(17)	伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度	(16)	郷土の伝統と文化の尊重、 郷土を愛する態度
						(17)	我が国の伝統と文化の 尊重、国を愛する態度
(16)	国際理解、国際親善	(17)	国際理解、国際親善	(18)	国際理解、国際親善	(18)	国際理解、国際貢献
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること							
(17)	生命の尊さ	(18)	生命の尊さ	(19)	生命の尊さ	(19)	生命の尊さ
(18)	自然愛護	(19)	自然愛護	(20)	自然愛護	(20)	自然愛護
(19)	感動、畏敬の念	(20)	感動、畏敬の念	(21)	感動、畏敬の念	(21)	感動、畏敬の念
				(22)	よりよく生きる喜び	(22)	よりよく生きる喜び

詳細は、道徳の時間ガイドー「特別の教科道徳」へのいざないーに掲載しています。(平成27年3月県教委・作成配付)



各学校においては、道徳教育の全体計画に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら年間指導計画を作成することになっていきます。内容項目は、その全てが道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育における学習の基本となるものです。これを基に、内容等に応じて、発達の段階を考慮して年間指導計画を作成してください。

資料 2

道徳教育の全体計画の別葉



各学校の道徳教育の全体計画には、学校や地域の実態に応じた重点目標が示されています。その重点目標や各学年の重点項目と学校の教育活動がどのように関連し、展開されていくのか、別葉において示すことが大切です。目標を明確に意識して、一貫した指導をすることにより、より重点的、具体的な指導を行うことができます。

小学校2年生の例

下の別葉は、各教科等における道徳教育に関わる内容及び時期を示した例です。例に示した学校の重点目標に関わる内容項目は、**思いやりと規範意識**です。

内容項目	国語	算数	生活	音楽	図画工作	体育	特別活動
善悪の判断、自律、自由と責任							
正直、誠実							
節度、節制	手順1 学校でどのような児童生徒を育成するのかを明らかにし、道徳教育の重点目標を明確にします。					場の安全に気をつけて運動する(通年)	持ち物の整理整頓をしっかりとする(通年)
個性の伸長							
希望と勇氣、努力と強い意志	思いやりにかかわる指導 できることをしっかりと行う(7月)						
親切、思いやり	グループで話し合って考えをまとめる(6月)		幼児の思いに応じて行動する(9月)	感じ取ったことを相手に伝える(9月)	他の人の作品のよいところを探す(11月)	相手のことを考えてストレッチングを行う(5月)	
感謝			通学路の安全を守る人々に関心を持つ(4月)				
礼儀	場面に合わせた挨拶をする(4月)		地域の人々に適切な言葉遣いで接する(11月)				挨拶や言葉遣いを適切にする(5月)
友情、信頼	作文を読んで友達と感想を伝え合う(10月)		遊びを工夫し友だちと仲よく遊ぶ(2月)	友だちと一緒に声を合わせて歌う(6月)	友達と活動しながら想像を広げる(10月)	友達と協力して長縄跳びをする(10月)	友達と仲よく協力する(6月)
規則の尊重		十進法取り記数法を基にきまりについて考える(9月)	公共施設の利用から公德について考える(10月)	音楽的な約束事を守って活動する(10月)		運動の順番やきまりを守って運動をする(通年)	遠足で公共交通機関の利用の仕方を学ぶ(5月)
公正、公平、社会正義							
勤労、公共の精神			動物の飼育と行動について考える(6月)				大切さを知り大切に動く(6月)
家族愛、家族生活の充実	家庭の出来事を思い出して書く(9月)		家庭で生活することを考える(6月)				
よりよい学校生活、集団生活の充実			学校生活の人々とのかわりを深める(5月)				よりよい学級にするために話し合う(通年)
伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	地域探検してきたことを記録する(11月)		地域の特色を生かした遊びをする(2月)	童歌や遊び歌に親しむ(11月)			
国際理解、国際親善							
生命の尊さ							食と生命とのかかわりを考える(9月)
自然愛護	科学的な本を内容を押さえて読む(11月)						遠足を通して豊かな自然に触れる(5月)
感動、畏敬の念						特徴や様子を現する(2月)	

規範意識にかかわる指導

手順2

道徳教育の重点目標のポイントを明確にして、道徳の時間以外の指導の内容や時期を検討します。

職員室などに拡大コピーした別葉を掲示して、実践した内容項目を記入していくなど、教育活動全体を通じて道徳教育が意図的・計画的に展開されるよう工夫をしてください。

その他の欄を設けて、行事や地域との関わりなども整理するとよいですね。



全体計画

道徳教育の目標を達成するための方策を総合的に示した教育計画

別葉

学習指導要領解説 特別の教科 道徳編では、別葉として次の例が示されている。

- 各教科等における道徳教育にかかわる指導の内容及び時期を整理したもの
- 道徳教育にかかわる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの
- 道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるもの

各教科の年間計画や教科書などを見ながら、どの教科でいつ指導するのか検討する。

資料 3 道徳の時間における指導過程 (基本的な例)

小学校

指導過程	学習活動 発問例	教師の支援・指導上の留意点	工夫の観点
導入 であう きづく	価値への方向付け ○ねらいとする価値（資料）に興味・関心を持つ。 ・今までにこんな経験はありますか。（その時の気持ちは・・・） ・今日の話には、○○が登場します。○○さんは、……です。	・短時間で行う（1～5分） ・導入のねらい ①道徳的価値に気付かせるようにする。 ②資料への意識付け ・歴史資料の時代背景や人物像の説明等 ③学習の雰囲気づくり ・簡単なゲームや体験、実験等	・生活体験の想起、教師の話、お家の方からの作文等の活用 ・ICT機器の活用 ・事前アンケートの活用 ・「私たちの道徳」の活用 学習への集中を図る。道徳的価値に意識を向ける。主題に対する興味・関心を高める。
展開前段 とらえる つかむ	価値の追求・把握 ○中心資料を基に話し合い、ねらいとする価値の追求把握をする。 ・～したとき、どんな気持ちだっただろう。 ・どんな考えで～したのだろう。 ・～が大切にしていることは何だろう。 □ゆさぶる深まる補助発問 ・そう思った理由は何ですか。 ・もう少し詳しく言ってみてください。 ・自分の意見に一番近いのはどれですか。 ・○○さんの言う△△とはどんな意味でしょうか。 ・○○さんの考えや○○さんに対して伝えたいことのある人はいますか。	・教師の範読は1回を原則にする。 ・資料に書いてある内容は発問しない。 ・発問は2～4つが望ましい。 基本発問 補助発問 中心発問 ・主人公の生き方に共感させるようにする。 ・児童の多様な価値観を引き出す。 ・クラス全員が考え、意思表示できるようにする。 反省するだけでなく、意欲ややる気を引き出す。	・資料提示の工夫 <ペープサート、場面絵、語り、紙芝居、ICT教材> ①最もねらいが達成できる。 ②多様な考え方、感じ方に出会う。<多面的・多角的に考えさせる発問> ・効果的な動作化や役割演技の工夫 ・話し合いの工夫 <全体、グループ> ・言語活動の充実 <吹き出し・短冊> ・意志表示の確認 <ハート型絵（赤・青）> ・板書の工夫 <まとめ書き、色チョーク、切り抜き絵> <意見の類型化>
展開後段 みつめる ぶかめる	価値の内面的自覚 ○深められた価値観に照らし、自己をみつめる。 ・～したのはどんな時ですか。 ・～した人を見たことがありますか。その時、どう感じましたか。	・自分はどうかを見つめられるようにする。 ・直接体験、間接体験、能動的体験、受動的体験をその時の気持ちを合わせて問う。	・多様な体験場面を想起させるための工夫 <絵、作文、写真> ・書く活動の工夫 <手紙>
終末 あたためる つなぐ	価値の整理・自己課題への意欲 ○学習を振り返り、まとめを整理し、自己課題を持つ。 ・～についての話をします。 ・今日は○○校長先生に～の話をうかがいます。	・実践しようとする意欲の高まりを認め励ます。	・適切な教師の說話 ・児童やお家の方の作文 ・ゲストティーチャーの話 ・ビデオレター ・「私たちの道徳」（格言など）の活用

詳細は、道徳の時間ガイドー「特別の教科道徳」へのいざないーに掲載しています。（平成27年3月県教委・作成配付）



道徳の時間においては、児童生徒一人ひとりが道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めることで道徳性を養うという特質を十分配慮し、それに応じた指導過程や指導方法を工夫することが大切です。

学習指導要領による道徳教育

－ 推進体制チェックポイント18 －



あなたの学校の推進体制は整っていますか
18項目で点検してみましょう

総合到達度 / 18

1 道徳教育推進教師を中心とした協力体制

到達度 / 6

道徳教育推進教師は、校長の方針のもと、全体計画や年間指導計画の立案、校内研修の実施、教材の充実・活用、家庭や地域との連携など、全校体制で取り組む道徳教育をコーディネートします。

- ◆学校（校長）の道徳教育の方針が明確に打ち出されている・・・ Yes・No
- ◆道徳教育推進教師が担当する役割が明確になっている・・・ Yes・No
- ◆道徳教育に協力して取り組む校内体制がうまく機能している・・・ Yes・No
- ◆道徳の授業づくりについて気軽に相談できる人がいる・・・ Yes・No
- ◆道徳の授業や「私たちの道徳」の使い方等の研修会を計画している・・・ Yes・No
- ◆道徳の全校的な学習参観や道徳教育の情報発信に取り組んでいる・・・ Yes・No

2 活用しやすい全体計画と年間指導計画

到達度 / 6

全体計画には、道徳の内容項目に関連する各教科等の指導の内容及び時期や、家庭や地域社会との連携等も示します。また、内容項目の新設や変更に応じた年間指導計画が必要です。

- ★全体計画に各教科等における道徳教育の「内容及び時期」を示している・・・ Yes・No
- ★全体計画に家庭や地域社会との連携の方法を示している・・・ Yes・No
- ★全体計画を見ると学校や学年で重点化を図る指導内容がわかる・・・ Yes・No
- ★年間指導計画に各学年の全指導内容を重点化して位置付けている・・・ Yes・No
- ★年間指導計画を見ると道徳の時間の発問がわかる・・・ Yes・No
- ★情報モラルに関する指導が年間指導計画に位置付けている・・・ Yes・No

3 道徳の時間を充実させる環境づくり

到達度 / 6

道徳の時間の配慮事項として、①協力的な指導体制、②体験活動を生かす指導、③魅力的な教材の開発や活用、④表現する機会の充実、⑤情報モラルに関する指導、が挙げられています。

- 時数確保のために道徳の時間を月曜日以外に位置付けている・・・ Yes・No
- 授業研修によって道徳の授業力アップを図っている・・・ Yes・No
- ティーム・ティーチングなどの協力的な指導体制ができている・・・ Yes・No
- 道徳ノートや道徳ファイルを授業で活用している・・・ Yes・No
- 学校や学級で道徳コーナーを設けている・・・ Yes・No
- 道徳の教材や資料の整備・充実を計画的に行っている・・・ Yes・No

表紙について

題名 「かまきりとあそんだよ」
(第61回滋賀県教育美術展 特選)

ともだちと虫とりをしました。かまきりもつかまえました。たのしかったので、おとうとといっしょにかまきりのせなかについて、そらをとんでいるえをかきました。かまきりのかまがぎざぎざでつよそうだったので、かっこよくかきました。

米原市立坂田小学校 1年 粕測 隼也さん

編集後記

「発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人ひとりの児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う『考える道徳』『議論する道徳』へと転換を図る」という改訂の趣旨をふまえた児童生徒の心に届く道徳の授業が今、求められています。本誌で紹介した実践を、日々の授業改善の参考としていただき、心豊かな児童生徒の育成につなげていただければ幸いです。

末筆ながら、編集に御協力いただきました皆様方に、心よりお礼申しあげます。

学校教育課 指導主事 野瀬 めぐみ



平成27年度道徳教育振興だより
滋賀の子どもたちにこころの元気を
教科化に向けた道徳教育の充実
平成28年3月発行

発行：滋賀県教育委員会
〒520-8577
大津市京町四丁目1-1